

なった」「土木の素晴らしさを実感した」「橋は車だけでなく電気や水も運ぶということがわかった」など多数の感想が寄せられた。また、『土木についてどう思いましたか?』という質問に対しては「快適な生活の土台に土木の存在があることが実感できて良かった」など、土木への理解と関心を示す意見が数多く出された。

(関西支部市民行事特定事業幹事、鹿島建設㈱ 芦田徹也)

## 第5回インターナショナルサマーシンポジウム 開催

7月26日(土)に土木学会本部において、第5回インターナショナルサマーシンポジウムが土木学会国際委員会(委員長:草柳俊二高知工科大学教授)の主催で開催された。このシンポジウムは土木学会の国際活動の一環として、英語での研究成果の発表の機会を設けることにより、日本に滞在中の留学生・エンジニアを中心に、国際交流と相互理解を深める目的で企画されたものである。1999年から開催され、5回目となる今回は128名の参加者(外国人学生・エンジニア83名、日本人学生・エンジニア19名、座長・特別講演者等関係者26名)を得て、7部門・91件の研究発表と基調講演、ならびに懇親会が行われた。

シンポジウム当日は、嘉門雅史京都大学教授(国際委員会アドバイザー)の開会の言葉に始まり、午前・午後合わせて計12の一般講演セッションと基調講演が行われた。基調講演では、角川浩二埼玉大学教授による“Optimal Strategies of Infrastructure Development in Developing Countries”と題した講演に、多くの参加者が熱心に聞き入っていた。一般講演での発表は、日本滞在中の留学生のものがその多くを占めたが、海外からの参加者の講演も複数件あったほか、日本人学生の発表も少なからずあり、参加者相互間の有意義な情報交換ができたとの声が聞かれた。

最後に参加者が一堂に会し懇親会が催され、の中で優秀発表講演者(受賞者は下記のとおり)に賞状と記念品が授与された。懇親会での参加者間の活発な交流によって、シンポジウムの主目的である国際交流と相互理解はさらに促進されたようであった。

優秀発表講演者 15名(敬称略)

Sopon Ritdumrongkul(東京大学) / Ali Alaghebandian(東京大学) / Kanako Usui(東京工業大学) / Danijel Kukaras(岡

山大学) / Mulyo Harris Pradono(京都大学) / Paola Mayorca(東京大学) / Govinda Raj Pandey(埼玉大学) / Muhammad Waheed Sarwar(東京大学) / Assela Pathirana(中央大学) / Mohammed Fazlul Karim(埼玉大学) / Aliakbar Golshani(埼玉大学) / Pa Pa Win(埼玉大学) / Chamroon Tangpaisakit(タイ・運輸省) / Riaz Ul-Islam(埼玉大学) / Xiaofeng Wu(国際航業㈱)

(国際委員会留学生分科会 第5回サマーシンポジウム組織委員会  
委員長 松本泰尚(埼玉大学))

## ものづくり大学の学生による歩道橋建設

開学3年目を迎え、いよいよ専門課程の授業が始まった。ご承知のとおり、ものづくり大学はユニークな教育システムを導入しており、4学期制、実技実習科目の重視、建築と土木とを統合した建設技能工芸学科にするなど多くの特色をもっている。

3年生の実習科目「築造実習」において、学内の2棟の建物(建設学科棟と製造学科棟)を2階で連絡する歩道橋を建設している。「(仮称)第一連絡橋」は橋長21.4m、幅員4.6m(有効幅員2.7m)、高さ4.4mの型コンクリートラーメン橋で、昨秋から4名の教員でプロジェクトチームをつくり、高度な技術力を要するところは建設技術者や専門技能者の助言を受けながら学生の手による本格的な橋梁の建設工事の計画書を作成した。並行して構造物の確認申請、基礎杭工事の外部発注などの準備作業を進め杭工事が3月末に竣工した。

4月からの授業は、学生による杭位置確認の測量作業が始まり、基礎部の鉄筋、型枠の組立、コンクリート打設、型枠解体の順序で進み、埋め戻してから橋脚柱の鉄筋および足場の組立までを行い第1学期を終了。第2学期からはコンクリート桁工事に進みハーフプレキャスト工法を採用して高所作業に移る。

授業は4科目が合同して成立しており、第1、2学期の1日を実習時間にあてている。教員が土木、建築出身の混合チームのため現場用語、測量などで混乱が生じ、この実習では土木で統一している。学生は今まで建築で指導を受けており、その差異を感じ取っていると思われ、これも教育効果と期待している。

担当教員のほかに4名の専門技術・技能者が指導につき、学生



写真 会場風景



写真 現場写真